astellas

PATIENTS ARE WHY™
AN ASTELLAS PATIENT CENTRICITY PROGRAM

インサイトからインパクトへ：
違いを生み出す患者パートナーシップ

患者さんとの協働に関する年次報告書 2025

© 2026 アステラス製薬株式会社 とその関連会社。すべての商標は、各権利者に帰属します。
すべての写真は、掲載されているご本人の同意を得たうえで使用しています。

目次

4 はじめに — 違いを生み出す患者パートナーシップ

8 患者参画が私たちの活動をどのように形づくり続けているか

10 胃がんにおける私たちの取り組み

12 膀胱がんにおける私たちの取り組み

14 前立腺がんにおける私たちの取り組み

15 急性骨髄性白血病における私たちの取り組み

16 ウィメンズヘルスにおける私たちの取り組み

20 希少疾患における私たちの取り組み

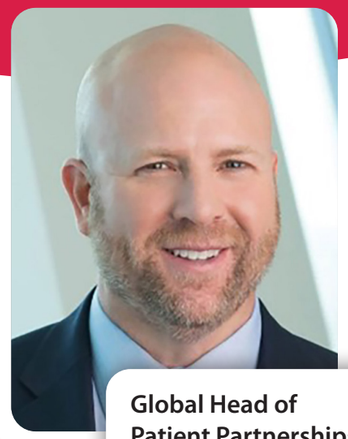
22 地図状萎縮と視覚障害における私たちの取り組み

24 臓器提供・移植における私たちの取り組み

26 より良い未来を目指して不断に取り組む

違いを生み出す患者パートナーシップ

Patient PartnershipsのGlobal HeadであるDoug Noland、
Patient CentricityのGlobal Head であるShontelle Dodson、
そして長年のパートナーである4人の方々からのご挨拶
としてはいかがでしょうか。



Global Head of Patient Partnerships
Doug Noland

本報告書は毎年、単なる振り返りにとどまらず、私たちがいったん立ち止まり、耳を傾け、学ぶための貴重な機会となっています。昨年、私たちは患者団体の皆さまに率直なフィードバックをお願いしました。そして今年も同様にご意見を伺いました。それは、継続的に対話し、確認し合うことが重要であると考えているからです。こうした対話を通じて、何がうまく機能しているのか、どこに改善の余地があるのか、そして共にどのように実質的な違いを生み出していけるのかを理解することができます。

その違いは、単独で生まれるものではありません。患者コミュニティからのインプットを踏まえながら、アステラスの多くのチームが部門を越えて協働し、多様な専門性を結集することで、フィードバックを意義ある行動へとつなげている結果です。

本年の報告書のテーマである「From Insights to Impact: Patient Partnerships That Make a Difference（インサイトからインパクトへ：違いを生み出す患者パートナーシップ）」は、私たちの取り組みの姿勢をしめしています。患者さんや介護者の方々から得られるインサイトは、単に紙面上の言葉にとどまるものではありません。それらは意思決定を形づくり、イノベーションを促し、患者さんのアウトカム向上につながるソリューションの創出へと結びついています。

今後も私たちは、このアプローチをさらに発展させ、フィードバックを求め、協働を深めながら、インサイトをインパクトへとつなげてまいります。患者さんのためにではなく、患者さんと共にVALUEを創出することこそが、医療をより人間らしいものにしていく道であると考えています。

また、アステラスとのこれまでの経験や、今後さらに大きなインパクトを共に生み出していくための考えについて、長年にわたり協働してきた4名のパートナーの皆さまからいただいた声をご紹介できることを、私たちは大変誇りに思います。

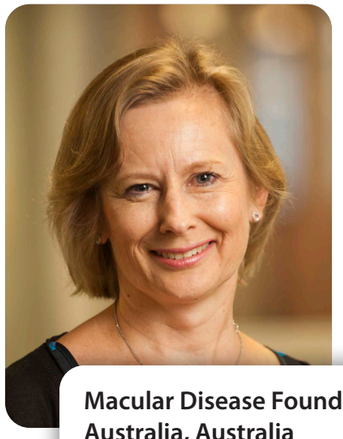
APS Associazione PaLiNUro, Italy
Edoardo Fiorini

医療制度や政治制度は、必ずしも患者さんが意思決定に参画することを前提として設計されているわけではありません。それでも私たちは2014年以来、膀胱がんと共に生きる方々が、自らの治療やケアの在り方に関わることができるよう、変革を推進することに注力してきました。

過去5年間にわたり、アステラスはこの歩みにおける私たちのパートナーとして共に取り組んできました。私たちは共に、臨床医、支払者、政策立案者と連携し、イタリアにおける膀胱がん医療の向上に取り組んできました。また、早期の徴候や症状に対する認知を高め、適時の診断を支援することを目的として、「Stop at Red」キャンペーンを立ち上げました。

私たちのパートナーシップは、製薬業界と患者コミュニティが協働することで、いかにインパクトを生み出し得るかを示しています。アステラスは、コミュニティの実際のニーズを理解し、それに応えようと努めています。そしてこのキャンペーンは、患者さんと医師をより良く支援するために進化を続けながら、現在も私たちの取り組みの中核を担っています。

変化には時間を要します。しかし、対話と信頼を通じて、私たちは制度上の限界を乗り越え、アウトカムの改善につなげることができると考えています。



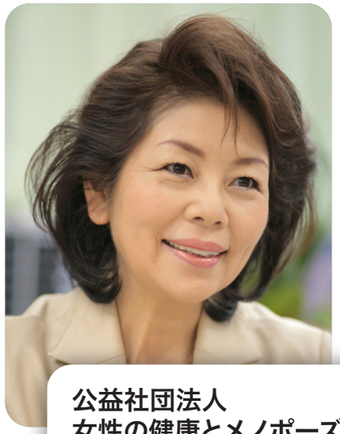
Macular Disease Foundation Australia, Australia
Dr Kathy Chapman

製薬企業と患者コミュニティの間に強固な関係を築くためには、まず相互性が不可欠です。仮に業界側が、Macular Disease Foundation Australia（MDFA）のような団体を、単にインサイトを得るための情報源としてのみ捉えるのであれば、私たちの使命を見落としていることになります。真の相互性と協働とは、リーチ、エンゲージメント、そしてインパクトを共に高めていくために、互いに力を合わせて取り組むことを意味します。

また、それには長期的なコミットメントも必要です。黄斑疾患は慢性疾患であり、患者さんのニーズは時間とともに変化していきます。私たちは、患者さんのジャーニー全体を通じて支援するという私たちの思いを共有してくださるパートナーを求めています。

当財団のEye Connectプログラムにおけるアステラスとの最近の協働は、この原則を体現するものです。Eye Connectは、最初から患者さんに多くの情報を一度に提供するのではなく、診断時や治療開始時など、患者さんの疾患ジャーニーにおける特定のタイミングに応じて、個別化された情報資材、実用的なツール、そして心理的サポートを12か月にわたり提供するものです。

Eye Connectは、協働が実際のニーズにどのように応え、視力低下に適応していく人々をいかに支援できるかを示しています。私たちは共に、黄斑疾患と共に生きる方々が、より良く暮らしていけるよう支援しています。



公益社団法人
女性の健康とメノポーズ協会
理事長
三羽良枝（日本）

更年期については、いまだ多くの誤解が存在しており、そのことが適切な医療を求めることを妨げる要因となる場合があります。女性の声をより広く届け、明確でエビデンスに基づく情報を共有することで、こうした障壁を取り除き、スティグマを軽減し、女性が必要な支援を求められるよう後押しすることができます。

アステラスとの取り組みは、極めて重要な役割を果たしてきました。セミナーやラウンドテーブルディスカッションを通じて、私たちは更年期に関する認知を高めるとともに、症状管理における科学的進歩や、更年期が日常生活に及ぼす影響について理解を促進してきました。

症状やニーズは人によって大きく異なり、また時間の経過とともに変化していきます。そのため、実際の経験を継続的に把握することは極めて重要です。同時に、医療、行政、雇用主の間に存在するギャップを橋渡ししていくことも欠かせません。

私たちが共有する目標は、女性の経験を尊重し、必要な解決策へのアクセスを確保し、更年期が人生に与える影響を社会として認識することです。

GI Cancers Alliance, US
Martha Raymond

胃がんにおいて、診断の遅れは依然として最も大きな課題の一つです。適時の発見を支援し、患者さんがより良い人生の可能性を得られるよう、治療および支援へのアクセスを確保するために、私たちは共に取り組んでいく必要があります。

アステラスとのパートナーシップは、こうした考え方を体現するものです。患者報告アウトカムに関する研究から、心理的ウェルビーイングを支える資材、バイオマーカーに関する教育に至るまで、すべてのプロジェクトは、患者さんにとって最も大切なことを理解し、それに基づいて行動するという共通のコミットメントを示しています。

敬意と目的意識に根ざした協働は、実質的なインパクトを生み出し、胃がんと共に生きる方々に、より良い未来への可能性をもたらします。変化を推進するためには、声に耳を傾け、行動に移すことが不可欠です。すべての声には意味があり、患者コミュニティを対等なパートナーとして尊重することこそが、違いを生み出すための最も確かな方法です。

Global Head of Patient Centricity, Astellas
Shontelle Dodson

すでに強固な基盤が築かれているこの時期に、アステラスにおいてPatient Centricityの責任者を担うことは、大変光栄なことです。近年、私たちのチームと患者パートナーの皆さまは、患者さんの視点を、私たちの考え方、意思決定、そして行動のあり方に、より深く組み込むために協働してきました。
本レポートは、その歩みと進展を具体的に示すものです。

私が最も大きな期待を抱いているのは、単に私たちがこれまで何を達成してきたかということだけではなく、私たちが生み出してきた前向きな流れです。疾患領域や地域を越えて、アステラスは、患者インサイトが真に重視されたときに何が可能になるのかを示してきました。それは、研究の優先順位を形づくり、アクセスと医療提供のあり方に示唆を与え、生活の質を支え、長年にわたる障壁やスティグマに向き合うことです。これらのパートナーシップは、患者さんのためだけではなく、患者さんと共にVALUEを創出するという、共通のコミットメントを反映しています。

それは、VALUE Creation、Delivery、Enablementの全体において、より早い段階から、より体系的に患者さんの視点を組み込んでいくことを意味します。同時に、うまく機能していることから学び、必要に応じて適応し、私たちが共に生み出すインパクトを測定していくことでもあります。

これらはすべて、信頼なくしては実現できません。患者パートナーの皆さまには、その率直さ、建設的な問いかけ、そして協働に心より感謝申し上げます。また、耳を傾け、インサイトを行動へと変えることに尽力している私たちのチームにも感謝します。私は、これから先に生まれるものに大きな期待を寄せています。そして、私たちは共に、インサイトをインパクトへと変え続け、私たちが支えるコミュニティに、より良く、より人間らしい医療を届けていけると確信しています。

患者さんとの協働が、私たちの取り組みをどのように形づくり続けているか

アステラスにおける私たちのVISIONは、医療の変革の最前線に立ち、最先端の科学を患者さんにとってのVALUEへと変えていくことです。これは、疾患を治療するだけでなく、身体的、心理的、社会的側面を含めた患者体験全体を高め、人々がより良い人生を送れるようにするソリューションを開発することを意味します。

私たちは、アステラスにとってのVALUEが、常に患者コミュニティにとってのVALUEを反映したものであることを目指しています。そのために、私たちの活動のあらゆる段階に患者さんの視点を取り入れ、VALUEを創出し、届け、実現していく取り組みの中心に、常に患者さんがいるよう努めています。

では、患者さんにとってのVALUEを創出し、届け、実現するとは、具体的に何を意味するのでしょうか。

VALUE Creation

重篤な疾患と共に生きる方々にとって、科学には人生を大きく変える可能性があります。VALUE Creationにおいて、私たちは、患者さんのニーズをより深く理解し、より良く支えるという共通のビジョンのもと、患者さんの人生を変え得る画期的な医薬品の開発に取り組んでいます。

谷口 忠明,
研究開発担当
Chief Research & Development Officer

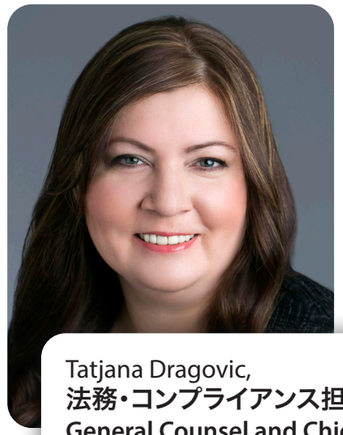
VALUE Delivery

VALUE Deliveryにおける私たちの責任は、イノベーションを実際の価値へとつなげ、革新的な治療を、個々の患者さんの状況に応じた最善の治療選択肢として、適切なタイミングで届けることです。患者コミュニティと協働することで、私たちはより良く、より速く、そしてより患者さんにとって意味のある形で価値を届けることができます。

Claus Zieler,
販売統括&
メディカルアフェアーズ担当
Chief Commercial & Medical Affairs Officer

VALUE Enablement

VALUE Enablementは、患者さんの視点を私たちの働き方にしっかりと組み込むための取り組みです。アステラスは、患者さんの診断から治療、その後の生活までの歩み全体を通じた支援に注力し、パートナーシップを育み、インサイトを活用することで、組織全体における患者中心のソリューションと意思決定をさらに高めています。



Tatjana Dragovic,
法務・コンプライアンス担当
General Counsel and Chief Ethics & Compliance Officer

本報告書で紹介する事例は、患者さんの声がアステラスの取り組みをどのように形づくり続け、私たちが届けるインパクトを高めているかを示しています。ここで紹介できるのは一部の取り組みに限られますが、私たちは、共に取り組むすべてのパートナーシップとすべてのコミュニティを深く大切にしています。一つひとつの協働が、革新的なサイエンスを患者さんにとってのVALUEへと変えていくという、私たちの共通の目標に貢献しています。

すべての患者さん、介護者の皆さま、そして患者団体の皆さまに、信頼と継続的なご協力に心より感謝申し上げます。

胃がんにおける私たちの取り組み

胃がんは、初期症状が曖昧であったり見過ごされたりすることがあるため、診断が遅れることが多く、適時の発見と治療が大きな課題となっています。また、治療後においても、サバイバーシップには身体的・心理的な大きな課題が伴い、生活の質に深く影響を及ぼします。

疾患に関する認知、教育、そして治療へのアクセスは、世界各地で異なっています。そのため私たちは、患者中心のソリューションを開発するために、世界中の患者団体と協働しています。

この1年、私たちは3つの主要な優先事項に注力してきました。

1. 胃がんの症状に関する認知を高め、早期診断を支援すること。
2. バイオマーカー検査および個別化治療へのアクセスを改善すること。
3. 患者コミュニティと協働し、胃がんの治療・管理や生活の質の向上について、十分な情報に基づいた意思決定を支援するリソースを作成すること。

症状認知の向上に向けたVivere Senza Stomaco si Può ODVとのキャンペーン

イタリアでは、Vivere Senza Stomaco si Può ODVが主導する疾患啓発キャンペーンを支援し、胃がんの症状および早期診断の重要性について広く発信しました。このキャンペーンでは、胃がんの影響を受けた方々の勇気と希望に満ちたストーリーも紹介されました。幅広い層に働きかけるため、キャンペーンではイタリアの著名なテレビ司会者と連携し、ミラノおよびローマの地下鉄駅を含む複数の場所で情報発信を行いました。その結果、152件のメディア掲載を獲得し、地下鉄で展開されたコンテンツは1,100万人に到達しました。これにより、イタリアにおける胃がんの認知向上に大きく貢献しました。このキャンペーンは、1,100万人に届けられました。

このキャンペーンは、**1,100**万人に届けられました。

メンタルヘルスへの支援

私たちは、提供する支援が胃がんの心理的・感情的な影響にも対応する必要があると認識しています。米国では、胃がん患者団体と協働し、メンタルヘルスジャーナルを開発しています。

2026年初頭に公開予定のこのジャーナルは、情報、ジャーナリングのための問いかけ、エクササイズ、励ましとなる言葉など、心理的ウェルビーイングを支える実用的なツールを提供します。

米国ニューヨークのコーネル大学で開催されたDebbie's Dream Foundation患者シンポジウムの参加者

中国における画期的な白書

中国では、北京白求恩公益基金会（BBCF）を含む複数の患者団体と協働し、中国初となる胃がん患者さんの生活の質に関する白書という画期的な取り組みを推進しました。

この業界初の取り組みは、7名の胃がん専門家の助言のもと、中国各地の患者コミュニティによって実施され、胃がん患者さんの生活状況と生活の質に特化したものです。

その目的には、早期発見と治療につながる主要な道筋を特定すること、精密医療および個別化医療の臨床応用を推進すること、そして患者さんのアンメットニーズを明らかにすることが含まれます。

これにより、がん予防に関する意識を高め、患者教育の仕組みを最適化し、生活の質の向上に向けた患者中心の戦略を策定するための、科学的根拠と実践的な指針を提供することを目指しています。

さらに、中国のWeChatプラットフォームを活用し、「Guarding the Stomach Together」プログラムを開始しました。これは、患者さんが自信を持って治療の道のりを歩めるよう、情報と実用的なヒントを提供するデジタルツールです。

アステラスのCancer Mission Dayにおいて、患者中心のケア推進について講演する、Nordic Network Against CancerのChairであるMargareta Haag氏

膀胱がんにおける私たちの取り組み

膀胱がんにおいて、診断の遅れは依然として最も大きな課題の一つです。多くの患者さんが主要な症状を十分に認識していないことが、その一因となっています。診断を受けた方々も、健康格差、検査へのアクセスの制限、侵襲性が高く負担の大きい治療、さらには生涯にわたる経過観察の必要性など、さまざまな課題に直面することがあります。

これらの課題に対応することは複雑であり、患者さんの声に耳を傾け、その経験から学び、多様なニーズに応えるアプローチを探っていくことが求められます。

膀胱がんと共に生きる方々の実体験への理解を深めるため、

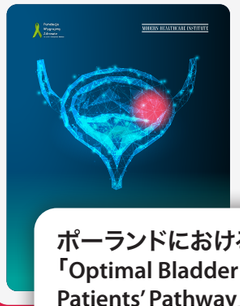
私たちはWorld Bladder Cancer Patient Coalition（WBCPC）と協働し、多国間調査を実施しました。この調査では、尿路症状のある方々がどのように医療情報を探し、また何が意思決定に影響を与えているのかを検討しました。4,000件の回答から、社会的・心理的要因、ヘルスリテラシー、そして症状の誤認識が、受診行動や情報探索行動にどのような影響を及ぼしているかが明らかになりました。

4,000人の成人が、尿路症状に関する調査に回答しました。

中国で初となる尿路上皮がん（膀胱がん）患者フォーラムを、進行期の患者さんを支える介護者およびご家族15名の参加のもと開催しました。福建省がんケアファミリーチャリティ（FCCF）およびDance with Cancerとの協働により、このイベントから得られたインサイトを、中国初となる尿路上皮がんと共に生きる方々の実体験に関する観察報告書に反映しました。この報告書は公開後30日間で300万ビューを獲得し、患者団体の認知向上と尿路上皮がんへの理解促進を目的としたものです。

膀胱がんと共に生きる方々のケア改善を支援するため、

私たちはポーランドにおいて、Wygrajmy Zdrowie Foundation、医療関連団体、臨床専門家と連携し、既存の膀胱がん治療パスウェイの理解促進に取り組みました。腫瘍内科医および泌尿器科医を対象とした調査に加え、その他の臨床専門家から得られたインサイトを踏まえ、ケアパスウェイの改善に向けた提言を含むコンセンサスレポートの作成を支援しました。本レポートは主要な学会で共有されるとともに、記者会見において発表され、その結果、40件のメディア記事につながりました。



ポーランドにおける「Optimal Bladder Cancer Patients' Pathway」レポートの表紙

インドで開催されたGenitourinary Cancers Annual Conferenceにおいて、がん看護師、腫瘍内科医、患者アドボケートと協働し、パネルディスカッションを開催しました。

登壇者は、患者アドボカシーの役割や、製薬企業を含むすべてのステークホルダーが、膀胱がんと共に生きる方々の生活の質を向上させるためにどのように連携すべきかについて、多様な視点を共有しました。本イベントは、登壇者および参加者によってソーシャルメディア上でも広く取り上げられました。

第16回全ロシア患者会議において、主要な腫瘍内科医、医療技術評価の専門家、患者団体によるラウンドテーブルディスカッションを支援しました。

パネリストは、診断、医薬品へのアクセス、患者ジャーニーに関する共通の課題を強調しました。提案された解決策には、診断体制の強化、革新的な治療法の診療ガイドラインへの組み込み、患者紹介経路の再構築が含まれていました。これらの提案は決議として取りまとめられ、ラウンドテーブル参加者全員の署名を経て、関連する立法機関および行政機関に送付されました。

提案された解決策には、診断体制の強化、革新的な治療法の診療ガイドラインへの組み込み、患者紹介経路の再構築が含まれていました。

膀胱がんについて一般市民に情報提供することを目的として、イタリアの病院で開催された一連のミーティング「Fermati al Rosso open days」で撮影された写真

前立腺がんにおける私たちの取り組み

疾患に関する認知や検診の機会が限られていること、診断の遅れ、スティグマ、コミュニケーション上の障壁、そしてケアへのアクセス格差は、前立腺がんの管理およびアウトカムに影響を及ぼす主要な課題の一部です。この1年、私たちは患者コミュニティとのパートナーシップを通じて、前立腺がんケアをより利用しやすく、より思いやりのあるものにすることを目指してきました。前立腺がんは男性において最も多くみられるがんの一つであり、これらの取り組みは、前立腺がんケアにおけるギャップを解消し、最も必要とされる場面で意義あるVALUEを届けるための、グローバルな潮流の一環です。

PROstActivos — 前立腺がんに主体的に向き合う

スペインでは、ANCAP（National Prostate Cancer Association）およびGEPAC（Spanish Group for Cancer Patients）と協働し、PROstActivosを作成しました。PROstActivosは、前立腺がんと共に生きる方々が自身のケアについて十分な情報に基づいて意思決定できるよう、専門家の知見、患者さんのストーリー、医療情報、そして心理的サポートを提供するウェブサイトです。PROstActivosの認知向上を図るため、私たちは300万人以上に届くメディアキャンペーンを実施しました。

PROstActivosは、以下の2つの国内賞を受賞しました。

A Tu Salud 2025 Award
のHealthcare Digital Innovation部門

NME Awards 2025
のHealthcare Education Support部門

Black Health Mattersとの協働

前立腺がんの影響を受ける黒人男性へのエンゲージメントと支援を強化するため、私たちは米国においてBlack Health Mattersと協働し、約33万人の男性会員を有する、歴史ある黒人フラタニティであるAlpha Phi Alphaと連携しました。 同団体の全国大会では、黒人男性が白人男性と比較して、前立腺がんのアウトカムにおいて不均衡に厳しい状況に置かれているという切迫した現実について発信しました。このイベントから得られたインサイトを踏まえ、私たちはCommunity Health Insight Panelを立ち上げるとともに、十分な支援が届きにくい人々へのアウトリーチとケアの改善に役立つベストプラクティスガイドを作成しています。

性と親密さについて語る

フランスでは、主要な患者団体と協働し、前立腺がんが性や親密な関係に及ぼす影響について、男性が理解を深めるための冊子を作成しました。この資材は、医療従事者を通じて、またアステラスのイベントにおいて配布されており、実際の患者さんのストーリーを紹介することで、スティグマを取り除き、率直で開かれた対話を促すことを目的としています。それにより、男性が親密な関係を維持しながら、前立腺がんと共により良く生きていくことを支援します。

フランスで提供されている、性と親密さに関する冊子の表紙

急性骨髄性白血病における取り組み

急性骨髄性白血病（AML）は進行の速い血液がんであり、進行するまで気づかれにくいことが多いため、早期発見が極めて重要です。そのため私たちは、疾患に関する認知を高め、患者さんや介護者の方々が迅速に行動するために必要な知識を得られるよう支援することに尽力しています。

協働と教育を通じて、私たちは不確実性を、十分な情報に基づく意思決定へと変えていくことを目指しています。これらの取り組みは、早期診断を促すことと、AMLと共に生きる方々を支援することが密接に結びついていることを示しています。なぜなら、この二つが共に機能することで、人々の生活に最も大きなインパクトをもたらすからです。

AMLハンドブック

中国の主要な患者団体であるNew Sunshine Charity Foundation（NSCF）とのパートナーシップのもと、私たちは患者さんおよび介護者の方々に向けたAML患者ハンドブックを作成しました。このハンドブックは、NSCFを通じてオンラインで、また63の主要病院を通じて配布され、医療に関する教育、心理的ウェルビーイングへの支援、そして利用しやすい社会的リソースを提供しています。

中国の方々に向けて作成されたAML患者ハンドブックの表紙

レジリエンスの物語

AMLへの理解を深めるため、私たちはUnidos Pro Trasplante de Médula Óseaと協力し、「Living with Hematologic Cancers: Stories of Resilience（血液がんと共に生きる：レジリエンスの物語）」と題した写真展を支援しました。

メキシコシティの人通りの多い通りで1か月にわたり開催されたこの写真展では、力強い写真を通じて、AMLが人々の生活に及ぼす影響を伝えました。

これらの写真は、診断の遅れ、治療に伴う副作用、共通する不安や恐れ、そして先の見えない不確実性といった現実を映し出すものでした。このキャンペーンは40件のメディア記事で取り上げられ、ソーシャルメディア上で35万人以上に届きました。

本展示の前を通過した方は、1日あたり35万人以上にのぼると推定されています。

メキシコで実施された「Living with Hematologic Cancers: Stories of Resilience」キャンペーンの写真

女性の健康における私たちの取り組み

スティグマ、教育や理解の不足、そして更年期症状が軽視されることは、更年期への移行期にある女性が必要なケアや支援にアクセスするうえでの主要な障壁であることが明らかになっています。

2025年を通じて、私たちは世界各地のアドボカシー団体や臨床医と協働し、女性が直面するこれらの重要な課題に対して、さまざまなアプローチで取り組んできました。

私たちは、更年期コミュニティと共に、時代遅れの固定観念に挑戦できることを誇りに思います。これにより、女性がこの重要な健康上の移行期を、知識と自信、そして選択肢を持って歩むことができるよう支援しています。以下は、2025年における私たちの取り組みの一部です。

「更年期は誰もが経験し得る普遍的なものですが、いまだに多くの女性が十分に認識されず、支援を受けられないままその時期を過ごしています。アステラスとの協働を通じて、国や分野を越え、私たちはようやく、更年期をめぐる語りを『沈黙』から『連帯』へと変えつつあります。患者さんの声を可視化し、より深い理解、共感、そしてエビデンスに基づくケアを求める動きにつなげています。」

– Lesley Salem, Founder, Over The Bloody Moon.

Menopause Experience & Attitudes Study（更年期に関する経験と意識調査）

更年期に関する対話をさらに促進するため、私たちは2025年3月、世界各地の更年期アドボケートおよび臨床医との協働のもと、Menopause Experience & Attitudes Studyの結果を発表しました。

本調査では、オーストラリア、ブラジル、カナダ、ドイツ、メキシコ、米国の男女13,800人から、更年期に関する経験、意識、認識について回答を得ました。

その結果、更年期が公衆衛生上の課題として十分に認識されていない背景には、構造的、社会的、教育的なギャップが存在することが明らかになりました。

本調査結果は、86件のメディア記事、約200万件のオンラインインプレッション、52,000件のオンラインでの反応につながり、1億3,800万人に届けられました。

これらの結果は、本研究が更年期をより広く社会的な対話の場へと引き上げ、タブーの軽減に貢献し、エビデンスに基づく健康への関与とアドボカシーを促進していることを示しています

13,800人の男女が、本調査において自身の考えを共有しました。

Over The Bloody MoonとのMenoVest™イベント

ホットフラッシュや寝汗は、更年期にみられる一般的な症状ですが、しばしば軽視されたり、時には冗談の対象とされたりすることがあります。このような状況に向き合うため、私たちはホットフラッシュを疑似体験できるシミュレーター「MenoVest™」を開発したOver The Bloody Moonと協働しました。

私たちは共に15か国で教育イベントを開催し、医療従事者、社員、一般の方々、ジャーナリストなど450名以上がこの体験に参加しました。

ハンガリーとブラジルのチームは、MenoVest™を着用した方々の様子を紹介するキャンペーン動画を制作し、更年期、その症状、そしてそれらが及ぼす影響に関する認知向上を図りました。

ブラジルでは、このキャンペーンが700万人以上の女性に届き、ホットフラッシュや寝汗に関する認知向上への貢献が評価され、SABRE Awardsで表彰されました。

ハンガリーにおいて、キャンペーン動画のためにMenoVest™を着用したボランティアの方々を撮影している様子

カナダでの女性向け パネルディスカッション

カナダでは、科学、医療、政策の専門家に向けて研究やニュースを提供するヘルスケア出版社であるLongwoodsと協働し、パネルディスカッションを開催しました。

「Life Beyond Stigma: Elevating the Voices of Women Experiencing Menopause（スティグマを越えて：更年期を経験する女性の声を高める）」と題した本イベントには、更年期ケアの先駆者であるDr. Wendy Wolfman、全国的に知られる家庭医であるDr. Sheila Wijayasinghe、The Menopause Foundation of CanadaのCEOであるJanet Ko氏を含む、著名なパネリストが登壇しました。

パネルディスカッションでは、テレビパーソナリティであり更年期アドボケートでもあるMelissa Grelo氏がモデレーターを務め、女性が必要な支援を自ら求め、受けることができるよう後押しするための推奨されるアプローチについて議論しました。

カナダで開催されたパネルディスカッションイベントに参加したアステラスチームと登壇者

本イベントには、医療提供者、公衆衛生担当者、患者アドボカシー団体を含む約500名が参加しました。その内訳は、対面参加が59名、オンライン参加が433名でした。

地域薬局での更年期ワークショップ

ドイツでは、女性に無料で利用しやすい教育と支援を提供するため、地域薬局における一連の更年期イベントを支援しました。

この取り組みは、特に地方部など、女性の健康に関するサービスへのアクセスが限られている方々にとって、非常に意義のあるものでした。

これらのイベントでは、気軽に相談できる機会を提供するとともに、女性と医療従事者が更年期について率直かつ有益な対話を行える、信頼できる場を創出しました。

ミュンヘンで開催された、更年期症状とその対応に関する教育を提供するイベントにおいて撮影された、アステラスのチームメンバーと更年期専門家の集合写真

ブルガリアで開催された更年期啓発イベント「Let's Talk About Hot Flashes」の写真。本イベントは、女性が利用できる支援についての理解向上に貢献しました

アステラスは、更年期に配慮した職場づくりに取り組んでいます。

グローバル企業として、私たちは更年期にまつわるスティグマを取り除き、理解と支援に根ざした文化を育むことにコミットしています。

この実現に向けて、私たちはグローバルで「Pledge to Champion a Menopause-Inclusive Workplace（更年期に配慮した職場を推進するための誓約）」を開始しました。

Over The Bloody Moonとの協働により、23か国で600名以上のラインマネージャーおよび65名の更年期アンバサダーに対して研修を実施し、職場においてこの移行期にある同僚を支援できるよう取り組んでいます。

また、米国のSociety for Women's Health Researchなどの団体とも連携しており、この協働から得られた成果は、雇用主団体や政策立案者との議論に活用されています。

メキシコで開催されたSin Reglas「Menopause at Work」サミットに参加したチームメンバー

ブルガリアで開催された更年期啓発イベント「Let's Talk About Hot Flashes」に参加したアステラスチームの写真

希少疾患における私たちの取り組み

希少疾患は、影響を受ける方の数が限られていることから、研究が十分に進みにくく、疾患への理解も十分とはいえず、公衆衛生上の優先課題として見過ごされることがあります。このように可視化されにくい状況は、認知の不足、情報の限られた利用可能性、そして治療選択肢の少なさにつながっています。

そのため、患者さんや介護者の方々と協働することは、科学的、臨床的、そして戦略的な意思決定において極めて重要な要素となります。

意義あるインパクトを生み出すためには、希少疾患コミュニティと早期から関わり、最も必要としている方々にとって真に関連性があり、実行可能で、かつ大きな影響をもたらし得るソリューションを開発していくことが不可欠であると、私たちは認識しています。

ポンペ病

ポンペ病は、体内でグリコーゲンを分解することが難しくなる希少な遺伝性疾患であり、時間の経過とともに筋力低下や呼吸に関する問題を引き起こします。

遅発型ポンペ病では、筋けいれん、歩行困難、疲労、睡眠に関連する呼吸障害などの症状がみられることがあります。

患者さんご本人やアドボカシー団体からのフィードバックは、安全性に対する私たちの考え方、新たな治療アプローチの可能性に関するコミュニティへの情報提供、生活の質への配慮、そして臨床試験において患者さんが成功をどのように捉えるかについて、私たちの取り組みを導くものとなっています。

患者さんの声に耳を傾けることで、私たちは臨床試験プログラムの関連性と応答性を高めてきました。そして、この研究が単なる科学的イノベーションにとどまらず、実際のニーズや経験を反映したものとなるよう努めています。

最近のチームビルディングセッションに参加した、米国を拠点とする遺伝子治療アセットチーム

X連鎖性ミオチュブラーミオパチー

X連鎖性ミオチュブラーミオパチー（XLMTM）は、筋力に影響を及ぼす希少な遺伝性疾患です。MTM1遺伝子の変異により、健康な筋肉に必要なタンパク質が体内で十分に作られなくなることで発症します。

XLMTMの子どもたちは、しばしば重度の筋力低下を呈しますが、現在のところ、その根本原因に対処する治療法はありません。

アステラスとXLMTMコミュニティとの取り組みは、2020年にアステラスがAudentes Therapeuticsを買収したことを契機に始まりました。当時、AudentesではASPIROと呼ばれる臨床試験が進められていましたが、この試験中に、残念ながら4名の男児が亡くなりました。

AT132に関する治験研究は、安全性上の懸念により中断され、現在も臨床保留となっています。私たちは、当時、コミュニティとのコミュニケーションや関与を、本来あるべきほど効果的に行えていなかったことを認識しています。

それ以降、私たちはXLMTMコミュニティのリーダーの皆さまと共に、信頼と協働の再構築に取り組んできました。

現在では、XLMTMコミュニティリーダーおよび国際的な保護者パネルであるXLMTM Patient Insights Panelとの継続的なパートナーシップを通じて、コミュニティとの関係と協働は強化されています。

私たちはXLMTM Patient Insights Panelと協働し、介入研究および観察研究のプロトコル、インフォームド・コンセント文書、アセント文書、家族向け治験資材、平易な言葉による要約、出版物、ならびに欧州における早期スクリーニングと診断を支援する診断アルゴリズムに対して、患者・家族の視点を反映するための意見提供を行っています。

また、XLMTMとその影響に関する認知を高めるため、ご家族の皆さまと協働して教育動画の作成にも取り組んできました。

私たちは、当時、本来あるべきコミュニティとのコミュニケーションや協働を、十分かつ効果的に行えていなかったことを認識しています。

信頼の再構築に向けて私たちと共に取り組み、建設的な問いかけを行い、現在の取り組みに貴重な専門性を提供してくださっているXLMTMコミュニティリーダーの皆さまに、心より感謝申し上げます。ご協働に深く感謝いたします。

> **「アステラスがXLMTMコミュニティへのコミットメントを継続し、次世代の遺伝子治療の開発を進めるとともに、この希少疾患への理解をさらに深めるために貢献していることに感謝しています。患者パートナーシップの改善と強化に向けた取り組みに感謝するとともに、XLMTMの影響を受ける方々とそのご家族の生活をより良くするため、今後も共に取り組んでいけることを期待しています。」**
>
> – Erin Ward, President, MTM-CNM Family Connection

私たちは、別の治験段階にある遺伝子治療によってXLMTM研究を進展させていることを前向きに受け止めています。一方で、ASPIRO試験中にお子さまを亡くされたご家族への思いは、今も変わることはありません。私たちは、その方々のレガシーに敬意を表して、この情報を共有します。彼らの貢献は、XLMTMと共に生きる方々およびそのご家族のための私たちの研究活動を、今なお導き続けています。

地図状萎縮および視力低下における私たちの取り組み

地図状萎縮は、加齢黄斑変性の進行型であり、不可逆的な視力低下を引き起こします。その結果、読書、運転、顔の認識といった日常生活上の動作が、次第に困難になります。

身体的な影響に加え、地図状萎縮は、不安、孤立、自立性の喪失といった心理的な課題をもたらすことが少なくありません。したがって、地図状萎縮の治療を目的とする医薬品のVALUEを評価する際には、これらの要素をすべて考慮する必要があります。

私たちのチームは、米国および欧州において、地図状萎縮と共に生きる26名を対象に、2件の質的インタビュー研究を実施しました。これらの研究では、診断に至るまでの経緯、経験された症状、健康関連の生活の質への影響、ならびに症状に対処するために用いられている方法について理解し、記録することを目的としました。

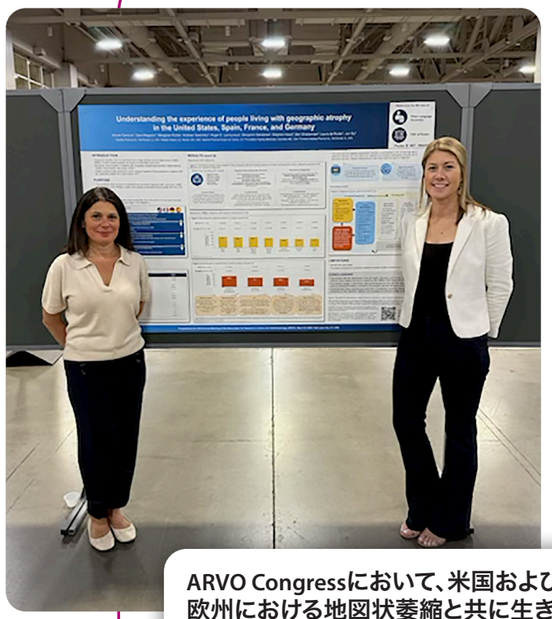
参加者の経験は、2025年5月に開催されたAssociation for Research in Vision and Ophthalmology Congress（ARVO）において、ポスター、平易な言葉による要約、ならびに音声版を通じて発表されました。これらは、アクセシビリティを支援することを目的としたものです。

地図状萎縮のある方々が共有した経験を理解することは、眼科医療に携わる医療提供者が、視力低下がもたらす心理的影響をより深く理解する一助となり、今後の患者さんとの関わりの改善につながる可能性があります。

さらに、これらの知見は、地図状萎縮、治療選択肢、ならびに生活の質を高めるための方策に関する、アクセスしやすい教育資材の開発にも役立つ可能性があります。

「視力を失うことは、自立の度合いや、この素晴らしい世界の中で日々の生活を営んでいくことを考えたとき、私にとって想像し得る最も恐ろしいことです。」

— 米国および欧州で実施された質的インタビューに参加した、地図状萎縮と共に生きる方



ARVO Congressにおいて、米国および欧州における地図状萎縮と共に生きる方々の実体験に関するポスターを発表する、アステラスのチームメンバー2名

この1年、私たちは、低視力または失明のある方々を代表する12名の患者団体幹部で構成されるOphthalmology Global Patient Insights Panelと協働してきました。

同パネルの視点は、臨床試験プロトコルへのフィードバックや、細胞治療に関する初期段階のインサイトを含め、私たちの地図状萎縮研究に重要な示唆をもたらしてきました。

これらの貢献は、試験エンドポイントの精緻化に役立つとともに、無作為化、長期にわたる対照群への参加、ならびに参加者に対するメンタルヘルス支援の必要性に関する重要な検討事項を明らかにしました。

社内では、ウェブサイト、契約書、教育資材を監査するため、Accessibility Working Groupを立ち上げました。

この取り組みにより、スクリーンリーダーとの互換性の向上、アクセシブルな形式の整備、包摂的な会議運営の実践などの改善が進みました。これらの成果は、視力低下のあるコミュニティにとどまらず、アクセスしやすい健康情報を必要とするすべての方々に広がるものです。

本取り組みは、患者さん向けコンテンツに携わる社内チームに対し、視覚的アクセシビリティを常に考慮することの重要性を浸透させ、現在も多くの継続的な変化につながっています。

同パネルの視点は、臨床試験プロトコルへのフィードバックや細胞治療に関する初期段階のインサイトを含め、私たちの地図状萎縮研究に重要な示唆をもたらしてきました。

臓器提供・移植における私たちの取り組み

臓器提供は依然として、臓器不足の一因となるさまざまな制度的・社会的障壁に直面しています。こうした状況を生み出している主な要因としては、一般市民の認知不足、臓器提供をめぐる文化的・倫理的な懸念、「オプトイン」型の同意制度における登録率の低さ、「オプトアウト」型制度の導入に伴う課題、ならびに国境を越えた臓器共有に関する物流上および法的な制約が挙げられます。

すべての患者さん、ご家族、そしてドナーにとっての移植ジャーニーを改善することは、30年以上にわたり、アステラスのパーパスの中核を成してきました。

フランスにおいて

フランスでは、移植を待つ間に毎年約1,000人の患者さんが亡くなっています。この課題に対応するため、アステラス フランスはGreffes+ Collective Foundationと協働し、臓器提供に関する認知向上と、フランスの「オプトアウト」制度に対する理解促進に取り組みました。

この取り組みは、医療予約プラットフォーム上で40万回のクリック、1日あたり500万人のリスナーに届くラジオおよびインターネットラジオ広告189本、さらにAmbassador City イニシアチブの推進に向けて、27名のアステラス社員が地域自治体と連携する成果につながりました。

本イニシアチブの一環として、アステラス フランスはOrgan Donation Ambassador Companyとして認定されました。また、その後、この臓器提供キャンペーンは、ドーヴィルで開催されたHealth Communication Festivalにおいて賞を受賞しました。

Organ Donation Ambassador Companyとしての認定を受け、誇らしげに撮影されたフランスのチームメンバー

ドイツにおいて

私たちはベルリンにおいて、政策立案者および患者団体を招いたイベントを開催し、臓器提供における最も大きな障壁について議論しました。

これは、臓器移植を受けた方々および生体ドナーを対象に、World Transplant Games Federationが主催する国際的な複合スポーツイベントであるWorld Transplant Gamesの開催に続く取り組みでした。当社はこのイベントを支援し、「命の贈り物」を称えるとともに、臓器提供に関する一般市民の認知向上を促進しました。

これらのイベントや数多くの対話から得られた成果は、連邦参議院が、臓器提供制度をオプトアウト方式へ変更するための法案を議会に提出することにつながりました。

ドイツで開催された政策立案者向けイベントに参加したチームメンバー

ミュンヘンで開催された臓器提供ランにおいて、マスコットベアと共に撮影されたチームメンバー

スペインにおいて

スペインでは、アステラスのスペインチームと、National Federation of Associations ALCER（Association for the Fight Against Kidney Diseases）およびNational Federation of Liver Transplant Patients（FNETH）を含む患者団体による10年以上にわたるアドボカシー活動を経て、生体ドナーを保護する新たな法律が成立しました。

この法律により、ドナーは有給休暇およびより大きな経済的保障を受けられるようになり、患者中心の移植医療における新たな世界的基準を示すものとなりました。

最終的に、臓器や組織を提供するという選択は、他者にとって命と希望を意味するものとなり得ます。私たちは、臓器提供に関する認知向上と行動を支援できることを誇りに思います。

臓器ドナーのさらなる保護について議論するため、スペイン下院で開催されたイベント後に撮影された、ALCERおよびFNETHの代表者の写真

イタリアにおいて

Patient Centricity（PC）Month 2025の一環として、アステラス イタリアは、ANEDロンバルディア地域委員会の事務局長であるTeresa Siclari氏、ならびにANED（National Association of Haemodialysis, Dialysis, and Transplant APS）の監査役であるGiuliana Porta氏の証言を伺う貴重な機会を得ました。

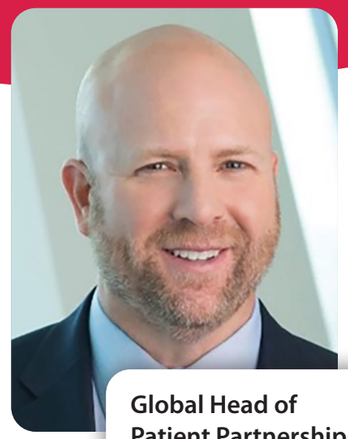
アステラス イタリアとANEDとの長年にわたる関係は、腎疾患と共に生きる方々、または臓器移植を受けた方々の経験、課題、ニーズに対するより深い理解を育むことに貢献してきました。

ペイシェントセントリシティ月間におけるこれらの対話の機会は、イタリアのチームが患者さんにもたらすことを目指しているVALUEを支える基盤となりました。

イタリアで開催されたPC Monthの講演イベントにおいて撮影された、患者団体代表のTeresa Siclari氏およびGiuliana Porta氏

より良い未来を目指して不断に取り組む

Doug Noland（Global Head of Patient Partnerships）
による結びの言葉。



Global Head of Patient Partnerships
Doug Noland

本年の報告書を締めくくるにあたり、私たちの活動を可能にしてくださっているアステラスの各チーム、そして患者コミュニティの皆さまに、心より深く感謝申し上げます。

皆さまから寄せられる信頼、インサイト、そして協働は、私たちに継続的な示唆と力を与え、患者さん中心の取り組みに対する私たちのコミットメントの実践のあり方を形づくり続けています。

私たちは、この6年間で達成してきた進展、そして築き上げてきた基盤を誇りに思っています。一方で、真に意義ある患者参画を実現するためには、常に好奇心を持ち、柔軟であり続け、変化に適応していくことが不可欠であると認識しています。

私たちが目指すのは、完璧であることではなく、継続的に改善し続けることです。

私たちは、コミュニティのニーズ、規制要件、そして医療制度が変化していく中で、学び、適応し、進化し続ける組織でありたいと考えています。そして、私たちが支援するコミュニティの目標と自らの目標を一致させることで、共により大きなインパクトを生み出すことができると信じています。

今後も私たちは、患者さんの視点がより早い段階から、より頻繁に組み込まれるよう、新たなアプローチを探求し、プロセスを磨き続けることに挑戦してまいります。

また、説明責任を確実に果たすため、進捗と成果をより確かな形で測定する方法を検討し、そこから学び、進化し続けてまいります。

この歩みに共に加わってくださっていることに、心より感謝申し上げます。耳を傾け、学び、協働することを通じて、私たちはこれからも既存の枠組みに挑戦し、医療における意思決定の中心に常に患者さんを据えたソリューションを創出し続けてまいります。

アステラスのPatient Centricityについての詳しい情報、

www.astellas.com/en/about/patientcentricity をご覧ください。

アステラスのPatient CentricityおよびPatient Centricity Teamを構成する5つのチーム（Patient Partnerships、Patient Insights & Solutions、Medical Intelligence & Patient Insights、Behavioral Science Consortium、Culture & Integration）についての詳細が掲載されています。

皆さまのご意見をお聞かせください

皆さまからのご意見は、私たちにとって大変重要です。

Patient Centricity Teamsがこれまで良好に取り組んできた点、また今後さらに改善できる点について、皆さまの率直なご意見やフィードバックをお待ちしています。

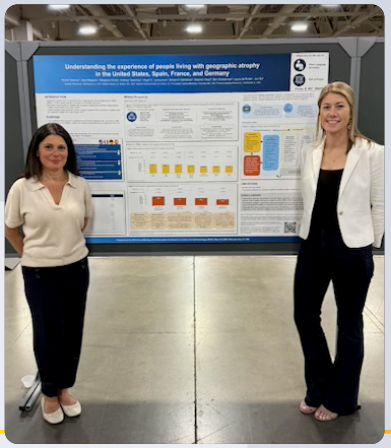
ぜひ5分ほどお時間をいただき、**アステラス患者さんとの協働に関する年次報告書 2025フィードバック調査**、下記のQRコードをご利用ください。

または、以下のメールアドレス宛にフィードバックをお送りいただくことも可能です。

patientcentricity@astellas.com

astellas

PATIENTS ARE WHY™
AN ASTELLAS PATIENT CENTRICITY PROGRAM



© 2026 アステラス製薬株式会社 とその関連会社。すべての商標は、各権利者に帰属します。
すべての写真は、掲載されているご本人の同意を得たうえで使用しています。